

音読

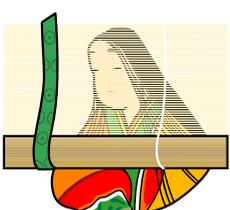
古文の文章の言葉のひびきを楽しもう
古文音読プリント1・2の学習の手引き

年

名前

古文音読の手引き

古文の文章の言葉のひびきに親しもう



音読を通して、古文の文章の表現に親しみましょう。

親しみやすい古文の文章を紹介しています。音読を試してみましょう。

音読することによって、文章のリズムや言葉のひびきを感じることができます。

暗唱するくらいに何回も読んで、長く親しまれている文章の美しさを味わいましょう。

昔の人のもの見方や感じ方を知ろう

解説文を読んで、昔の人のもの見方を知りましょう。

古文について解説した文章をプリントに載せています。

解説文を読んで大まかな内容を知り、昔の人のもの見方や感じ方を今の自分と比べてみましょう。

『枕草子』～第一段～ 古文音読プリント1・2

作品について

『枕草子』(まくらのそうじ)は、平安時代中期に女流作家、清少納言(せいしょうなごん)により書かれた随筆(ずいひつ)です。

随筆とは、筆者の体験や見聞きしたことを題材に、感想を交えて書いた文章です。

古文1のプリントは、『枕草子』第一段より、

「春は曙(あけぼの)」と「夏は夜」の部分載せています。

古文2のプリントは、同じく『枕草子』第一段より、「秋は夕暮」と「冬はつとめて」の部分載せています。

四つの季節それぞれに、「季節 好きな時間」「その情景や感想」で構成されています。清少納言が、四季のどこなところに感動しているかが分かり、四季に関する日本の伝統的なもの見方や考え方にふれることができます。

枕草子
まくらのそうじ

清少納言
せいしょうなごん

春はあけぼの。

やうやう白くなりゆく山ぎは、

少し明かりて、紫だちたる雲の

細くたなびきたる。

春は、夜明けがよい。しだいに白んでいく山に接する空が、ほのかに明るくなって、紫がかつた雲が細くたなびいているのがよい。